

企画名：たらちねクリニック・プロジェクト 2018 年度

団体名：認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室「たらちね」

1. 報告要旨

2017 年 6 月にオープンしたクリニックは、今年度で 2 年目を迎えた。放射能測定室を併設した医療機関の地域の注目度は高い。特に他の医療機関で働く医師や看護師のたらちねクリニックに対する認識の高さは予想以上であった。(地域の医療関係の催しなどで、多くの人々が知ってることに驚いている)

被曝と向き合う医療機関という位置付けで活動をする中、同じ医療機関で働く人々に興味を持たれることは、この活動が社会に刺激や影響を与えているということでもある。

患者数は前年比で 200%以上となっており、クリニックが地域に馴染み、信頼を得ていることがあらわれている。

たらちねを安心できる医療機関として選んでくださる様々な人々の動きから、2011 年の原発事故では、いろいろな立場の人が精神的に痛手を負ったのだということを感じさせられた。

こどもドックもテスト的に実施していた前年と比較すると、利用者は2倍に増えた。

多くを語らずとも、保護者が子どもの健康を心配し気遣っていることがわかる。

心のケアについては、精神科医師の他に臨床心理士の協力も得て、箱庭などの「遊びの力」で子どもたちの心を活性化できる事業をした。現在の事務所とは別の場所に「あとリエ・たらちね」を開設し、子どもと母親の心のためのスペースを作った。

この事業は、取扱いの難しさがあ、クリニックと一体化の活動というのではなく、「心のケア」の分野として独立した形で進めている。

口コミで通所する母子の数も増えている。

震災・原発事故から 8 年が経ち、人々が「あの日」のことをふりかえり、考えられる時期になっている。やっと、その時がきた、という感じである。その中で、今も悔いること、自分を責めていること、子どもへのケアが不足していたことなど、見えてくることがある。

身体と心のケアが本当に必要なのはこれからであることが、この 1 年間の活動で実感できた。

2. 成果物

1. 述べ診療者数：1,969 人 (2018.3~2019.4)
2. 子どもドック延べ利用者数：636 人 (2018.3~2019.4)
3. 活動レポート『[未来の福島こども基金ニュースレター](#)』No.16 (2018.7)
4. 「[見えない不安を減らすために](#)」『[パルシステム放射能レポート](#)』(2018.8)
5. 「[JCB 復興支援、「市民科学」で子どもの健康を守る](#)」『[alterna](#)』(2018.5.1)
6. 「Der einzig akzeptable Grenzwert ist null」『[Brigitte](#)』(2018.4)